

令和8年度埼玉県自殺対策連絡協議会 議事録

開催日時:令和8年8月24日(月) 18時30分～20時00分

場 所:Teams によるWEB会議

出席者:別紙のとおり

傍聴人:1名

1 開 会

2 委員紹介

- 3 議 事 協議会設置要綱第4条第2項の規定に基づき、丸木会長が議長となり以降の議事を進行。

■議事(1)令和7年の県内の自殺の動向について

■議事(2)自殺対策の取組状況について(埼玉県、さいたま市)

事 務 局:議事(1)及び(2)について、資料1、2-1、2-2、2-3、2-4に基づき説明。

丸 木 会 長:さいたま市における令和7年の自殺者数は前年より減少しているが、原因あるいは傾向についてどのように考えているか。

事 務 局:自殺は様々な要因が複合的に連鎖して起きるものと考えられているため、引き続き総合的な自殺対策の推進に取り組むことが重要であると考えている。

■議事(3)埼玉県自殺対策計画の中間見直し(案)について

事 務 局:資料3に基づき説明。

丸 木 会 長:自殺死亡率について国から新たな目標値が出されていない状況であるため、事務局案のように進めるのが適切ではないか。

■議事(4)埼玉県こどもの自殺対策に係る法定協議会について

事 務 局:資料4-1、4-2、4-3に基づき説明。

丸 木 会 長:今年度は本協議会を活用し、来年度からは本協議会に部会を設置し協議していくことである。事務局案について意見はあるか。

こどもの自殺が増えており、特に女性において増えている。オーバードーズとの関連も考えられており、実態について協議していく必要があると考えている。近年のこどもの自殺について、委員から意見をいただきたい。

飯 島 委 員:春頃、静岡県清水市で実施している、「なんでもかんでも相談会」の見学に行った。もう10年ほど実施している相談会ということだが、精神科医療だけではなく、身体科医療、福祉、司法関係者も参加していた。相談者の困りごとに応じて連携して丁寧に相談を行っており、感銘を受けた。

自殺というのは、一つの問題だけではなく、こどもに関わる親との関係であったり、

経済状態であったり、いじめであったり、背景は様々である。関係者が一体となって、一人の人に対応するというのが今後も重要なのではないか。

丸 木 会 長:渡邊委員からはいかがか。

渡 邊 委 員:さいたま市の GPE ネット事業等で紹介される患者について、若い方が増えている。そうした方たちは大人に対して反感をもっているのかと思っていたが、実際に話してみると、「ちゃんと相談に乗ってくれる大人を探している」ということを聞いた。例えば、お金の問題があるときや、反社会的な人と関わってしまったときや、妊娠してしまったときに、どうしたら良いかということにしっかり対応することで信頼を得ることができれば、公的な支援につながってもらえるようになるのではないかなと思う。困りごとは個別なので一概にこうすればいいということはないが、相談があったときにはそれをちゃんと受け止めて、100%でないにしても解決策を出せるよう対応することが、今後大事なのではないかと考えている。

飯島委員のお話でもあったように、様々な立場の人が親身になって一緒に対応していくのは良い方法ではないか。一番信頼を得ていた担当者が年度替わりで変わることなどで支援が途切れるという問題があるので、包括的に関わるような体制があると良いのではないかな。

丸 木 会 長:お二人から出た意見を、今後も部会等で発展させていくことが必要ではないかなと思う。

■議事(5)その他 委員からの情報提供

丸 木 会 長:染谷委員から事前に情報提供いただいている。染谷委員に説明をお願いしたい。

染 谷 委 員:資料5を御覧いただきたい。埼玉いのちの電話では、県内の高校から合唱部を招いてコンサートを開催している。これを実施している背景には、若い方にも相談につながってほしいということと、何十年後かであってもよいので、いのちの電話の相談員になろうという気持ちをもってもらえたらという願いがある。9月22日に大宮区のレイボックホールで開催するため、ぜひご参加いただきたい。

つづいて、フリーダイヤル相談の実施についても情報提供したい。通常、フリーダイヤルの設置は毎日16時から21時まで、また、毎月10日は24時間実施している。9月の自殺予防週間に合わせて、9月10日からの一週間、全国のいのちの電話が連携して24時間フリーダイヤルで電話を受けるというイベントを実施する。必要な方にはぜひご案内いただきたい。

また、埼玉いのちの電話が自殺予防に貢献できることとして、電話をつながりやすくすることが重要であると考えている。近年は相談員のなり手が減少してきているため、相談員になっていただけそうな方がいれば、ぜひお声がけいただきたい。

丸 木 会 長:さいたまチャイルドラインではいかがか。

太 田 委 員:ボランティアの募集については、コロナが始まった頃にはものすごい数の応募をいただいたが、その後は減少傾向となった。どんな方法であれば若い人に届くのかを考

え、昨年にヤフー広告を開始したところ、途中で募集を終了するほど応募があった。また、今年は大人向けのポスターを作成した。こどもたちからのチャットで「これは AI の相談か」、「AI の相談はいいことしか言わない」という声が届くことがある。その声を受けて、こどもたちの言葉の奥にある気持ちを聞けるのは人だけなんだ、大人だけなんだということを伝えるポスターを作成した。お金をかけて駅に掲示することにしたので、多くの人の目に止まってもらえたらと思っている。どう伝えていけば良いかは、今後も検討しながら進めていきたい。

丸 木 会 長: 太田委員の意見について染谷委員からはいかがか。

染 谷 委 員: 確かにコロナの頃や阪神大震災の後は非常に多くの応募があった。テレビで報道されることの反響は大きく、全国的に広報する必要を実感した。新しい広報の方法が必要であると考え、インターネット等の活用も検討しているところ。ただ、最も確実に相談員としてつながっていただけるのは身近な人からの紹介であるため、委員の皆様にもぜひ身近な方へのお声がけをお願いしたい。

丸 木 会 長: 最近は SNS を利用して応募することも増えていると思うので、そうしたツールを活用するのも一つの方法であると思う。

太田委員に伺いたい。こどもの自殺が増えていることについて、今のこどもたちが抱えていることや、困っていることをどのように考えているか。

太 田 委 員: こどもたちが自分の気持ちを打ち明ける場所がない。相談機関は増えているし、学校や様々な場所で対策を取っていることと思う。しかし、そこにこどもたちがつながるかという、なかなか難しいところがある。

皆さんにはぜひ、「チャイルドライン」と検索していただき、チャイルドライン支援センターのホームページを御覧いただきたい。「つぶやく」というページがあり、掲示板になっている。こどもたちから毎月 1,500 から 2,000 件が投稿されており、公開の了解を得た内容が無作為に抽出し毎月掲載している。こどもたちの本音が溢れており、深刻なものでは、「家に帰ってくると潰れそうになるが、学校ではいじめをしている。全部自分が悪い。だから私を殺してほしい。」というようなものもある。誰かに発信していることだけでも、もしかしたら社会、世の中につながる一歩なのかもしれない。

丸 木 会 長: 本日出席している委員は、今後部会に参加していただく方も多いものと思う。ぜひ協力をおねがいしたい。

他に各委員から意見はあるか。

井 口 委 員: 多重債務の問題について情報提供をしたい。30年以上前から多重債務が大きな社会問題となり、20年前に貸金業法が改正された。以後、多重債務者は減少していたが、この3、4年で破産者が増加している。この背景を分析したり、国が作成した多重債務者向けのプログラムの有効性を検証したりする内容で、貸金業法改正 20 周年の記念集会を実施する。まだチラシはできていないが、12 月 13 日(日)の 13 時から 16 時半までソニックシティにて開催予定。ぜひ参加いただきたい。

なお、国のプログラムの中で教育の必要性に関するものがある。私たち夜明けの会では県から業務委託されて相談会を実施しており、これも重要なものと思っているが、こどもたちへの教育についても重要だと考えているので、この点も集会で掘り下げていきたい。また、スマートフォンから手軽にお金を借りられるようになっており、返済の計画なしに借金をして多重債務に陥り、相談にもつながらないと、自殺までつながってしまうこともあるのが問題だと考えている。

丸 木 会 長：最近ではゲーム依存やギャンブル依存の問題がある方が、スマートフォンで課金を繰り返してしまうことが問題になっている。依存症的な側面からもアプローチをする必要があるのではないかと思う。

中 西 委 員：全体の自殺者数が減少している一方で、若年層の自殺者数が増えているということは、少子化が進んでいる中で由々しき問題であると率直に思う。様々な自殺対策がある中で、大きく二つのものに分けられると思う。

今日話題に出てきたものは、基本的には今見えている問題の方だと思われる。例えば、自殺未遂をしてしまったという方から依頼を受けてつながることができれば、私も見守ることや助言をすることもできる。見えている方の自殺対策というのは、様々な工夫がされている。一方で、見えていない、ひっそりと自殺に至ってしまう方もおり、そうになると何の支援もできない。なぜ自殺が起きるのかという原因の究明が重要だが、様々なものが重なって生じているものであるため、若者の自殺についても原因の究明はなかなか難しいことだと思う。SNS の発達等によって若者の悩みが増えているのではないと思うが、そのような見えない部分の自殺対策についても議論が深まっていけると良いのではないかと感じている。

丸 木 会 長：時間となったので、これにて議事を終了とさせていただきます。

4 閉 会